

お盆とお施餓鬼ってなんだろう

お盆、何となく分かるけれど本当はどのような意味があるのでしょうか、そしてどのようにに棚をお飾りするのでしょうか。また、毎年行われるお施餓鬼、一体どのような行事なのでしょうか。地域性が強い行事ですので一概に言えない部分も多々ありますが、一助の為に記したいと思います。

・お盆の時期

この辺の地域ではお盆といえは八月十三日～十六日までを指します。しかしながら丁度一か月前の七月がお盆の地域もあります。これは太陰暦でみるか太陽暦でみるかの違いです。また、十三日～十六日以外に行う地域もあるそうです。

・お盆の由来

『仏説盂蘭盆經』ぶつせつうらんぼんきょうという經典の「盂蘭盆」うらんぼんという言葉からきています。この經典にはこんなお話が語られています。お釈迦様の弟子の中に、目連尊者もくれんそんじやという方がいました。この方は神通力（すべてを見通す力）に変優れていました。ある時尊者は、亡き母が今どうしているかと思い、神通力を使って母を探しました。するとどうでしょう。母は餓鬼の世界に堕ちてしまい、骨と皮だけになって痩せ衰えてしまっているではありませんか。尊者は何とか母を助けようとお飯を運んで食べさせようと思いましたが、ご飯は火となり炭となり、食べる事が出来ません。

そこで尊者はお釈迦様に相談しました。するとお釈迦様は「多くの僧が雨季の修行を終える七月十五日、その僧達に施しをしない。その施しによつて得られる功德（良い力）は母に廻り、苦しみから救うことができらるだろう。そして其の功德は母ばかりでなく、先祖すべてに廻るだろう」と。尊者はその教えに従つて施しをしました。施しを受けた僧達は、尊者の願いを受けて母の為に祈念しました。すると、尊者の母は餓鬼の苦しみから逃れることができたのです。

このように、自分をこの世界に産み出してくれた母への供養、それがお盆の原点なのです。そして様々な日本古来の習俗、地域に土着する習俗と集合して、今のようにご先祖様が帰ってきて、とびっきりのおもてなしのご供養をする行事と変化したのです。

形は変われども、ご先祖様に対するご供養の行事であることは変わりません。今の自分は連続と続くご先祖様がいらっしゃって初めて存在します。その命の繋がりを確かめることができる大事な行事です。特に様々な面における「つながり」が希薄となつてしまった現代です。自分の知っているご先祖様、知らないご先祖様も帰ってきます。盆棚を設けて、精一杯のおもてなしでお迎え出来ればと思います。

・盆棚について

精霊棚せいりやうだん、先祖棚などと呼ぶ場合もあります。今はお仏壇をそのまま盆棚に見立ててしまうことが多いですが、本来はお仏壇とは別に棚を設けるべきです。

○テーブルなどの上にマコモで編んだゴザを敷きます。これが柵になり、ご先祖様のお座敷になります。

○柵の四方に青竹を立てて、その上部に縄を張ります。これで壁が出来ました。

○縄ほおすきに鬼灯を吊るします。これは提灯、明りです。

○柵にお位牌や過去帳などすべて飾ります。もし、お仏壇を柵にする場合は、いつもより仏壇の前の方に飾ります。これはご先祖様が帰ってきたことを形のうえでも表わしています。香炉や蠟燭立て、お花も飾ります。

○キュウリと茄子で作った馬と牛をお供えします。ご先祖様がキュウリの馬に乗って早く帰って来るように、茄子の牛に乗ってゆっくり戻って行くようにという意味です。

○季節の野菜や果物、故人の好物などをお供えします。客人をおもてなしすると考えれば分かりやすいです。

○蓮の葉、または里芋の葉を用意して、その上にキュウリと茄子を賽の目に刻んで洗米を混ぜて盛ります。これは「水の子」と呼ばれます。

○浄水を器に注ぎお供えし、ミソハギを束ねて添えます。ミソハギは、仏花として仏前にお供えする地域もあるそうです。ご先祖様をお迎えするにあたってミソハギに水を含ませて、玄関先でお祓いをする地域も

あり、まさに禊みそぎです。禊萩みそぎからミソハギの和名が生まれたとも言われます。

・お施餓鬼とは

お施餓鬼は『焰口餓鬼陀羅尼經』えんくがきだらにきようという經典に由来しています。その中にこんなお話があります。お釈迦様の弟子に阿難尊者あなんそんじや という方がいらっしゃいました。尊者がある時に一人瞑想していると、目の前に恐ろしい姿の餓鬼が現れて言いました。「お前の命はあと三日である。助かりたければたくさん餓鬼にお腹一杯になるよう施しを与えるのだ」と。しかしながら尊者は施し方が分かりません。そこでお釈迦様に相談したところ、施し方を伝授されました。それに従って施しをしたところ、餓鬼は救われ、尊者はその功德くどくによって長寿を得ることが出来ました。このお話がもととなり、今日のお施餓鬼の行事が行われております。つまり、字のごとく「餓鬼に施す」ことこそがお施餓鬼の本質です。

・お施餓鬼は一年に一回だけ？

現在、ほとんどの寺院において、お施餓鬼は年に一度行われています。しかしながら、真言宗の僧侶は餓鬼に対する慈悲の心で、日々お施餓鬼を行っています。それはつまり、日々の修行の一環としてお施餓鬼を行っているということなのです。では年に一度行われるお施餓鬼はどういう意味があるのでしょうか。実は、年に一度のお施餓鬼は二部構成で成り立っています。第一部は、いつもお守り下さっているご本尊様に、日々の感謝を込めてご供養する為の法要を行います。それと同時に、その供養の心をすべての檀信徒のご先祖様にも捧げます。

そして第二部において、お施餓鬼が行われます。施餓鬼棚を設けて、供物を飾り、餓鬼に施しをします。日々の修行におけるお施餓鬼は僧侶一人で行われますが、この時は大勢の僧侶によって行われます。それにより得られる大きな功德くどく（良い力）は、檀信徒の皆様はもちろん、ご先祖様、さらにはこの世のすべてに廻ります。この功德くどくを廻らせることを廻向えこうと申します。

・お盆とお施餓鬼の関係

お盆とお施餓鬼、一見すると違う行事ですが日本において密接に、そして複雑に結びついております。お盆の盆棚については前述致しましたが、お供物の一つに「水の子」があります。この水の子、実は、ご先祖様へのお供物ではなく、餓鬼へのお供物であると言われております。ある地方では、水の子は盆棚には供えず、盆棚の下へひっそりと隠すかのように供えるそうです。これは、ご先祖様へのお供物と明確に区別しているからと考えられます。また、一緒に水で和したご飯をお供えしたりもするそうです。

お盆にはご先祖様が帰って来ます。しかし、ご馳走につられてか、一緒になつて餓鬼も付いて来てしまうことがあります。そんな餓鬼の為に、餓鬼が食べられるものを供えたり、別膳を作ったりするのです。つまり、盆棚と施餓鬼棚（餓鬼の為に供物を飾る棚）が習合しているのです。

今では、多くの人が餓鬼への施しとは知らずに、お供物をお供えていると思います。しかし、知らず知らずの内に、餓鬼への施しを、つまり餓鬼を行っていたのです。なんと尊い習俗でしょう。そしてその意味を認識して行えば、ますます素晴らしいことと思います。

・結語

お盆とお施餓鬼の共通点、それは「施しの心」であり「慈悲・慈愛の心」です。お盆においては、盆棚を飾り精一杯のおもてなし、換言すればお施しをします。そしてその心は、慈悲・慈愛の心によって、自分に至るまでのすべてのご先祖さまへ捧げられます。お施餓鬼においても同様です。餓鬼に対して、慈悲、慈愛の心から、精一杯の施しをします。

そのような心は、本来的には見返りを求めません。功德くどくがあるからお施餓鬼をする、それも大変と尊いことです。しかし本来の目的は功德くどくを得ることはありません。慈悲・慈愛の心により施しをすることです。そのことを、特に我々僧侶が今一度認識し直さねばならないと思います。

今の時代、近代化、合理化の名のもとに、様々な習俗が簡略化、または消滅してしまっており、お盆の盆棚もその一つでしょう。昔は飾っていたけれど・・・やり方がわからなくて・・・どんな意味があるか分からないから止めてしまった・・・理由は様々あるでしょう。寺院からきちんと説明がなかったことも大きな原因かと思えます。

ご先祖様や餓鬼、なかなか目には見えません。どうしても見えるもの優先というか、唯物論的思考が勝つてしまいます。忙しい現代においては当然かもしれません。しかしながら目に見える世界がすべてと考へることは人間の傲慢ではないでしょうか。目に見えない世界を完全に信じるまではいかなくとも、心をそちらに向けることが出来たとき、心は確実に豊かになります。その為の一つのきっかけがお盆であり、お施餓鬼であると思えます。

お供物やお飾りのひとつひとつの意味を知り、理解した上でご先祖さまや餓鬼を想いながら盆棚の準備を、是非とも檀信徒の皆さまにして頂けたらと思います。すべてに意味があり、それはすべてご先祖さまや餓鬼に対する施しの心がものとして表れたものです。それが盆棚であり、施餓鬼棚です。

地域によってお供物やお飾りが様々な理由は、ご先祖様や餓鬼に対する施し方を各々が工夫し、独自性が表れたのではないのでしょうか。正解はございません。基本的には、前述したお供物、お飾りをして頂ければよろしいのですが、もし、それ以外の伝えがある場合は、尊いものとして大切にお守りして下さい。物質的豊かさは手に入れた現代かもしれません。しかしながら精神の豊かさはそれに反比例してしまっている感は否めません。今一度、お盆、お施餓鬼のような行事を見直す時期にさしかかっているのかもしれない。若輩故に、言葉足らず、説明不足で申し訳ございませんが、是非ともこの資料をご活用頂き、お子さま、お孫さまへと伝承して頂ければこれ以上の喜びはございません。

ほんのひと時で結構でございます。目に見えない存在に心を向けてみて下さい。きっと、心の安らぎを、安心あんじんを感じて頂けると思います。

